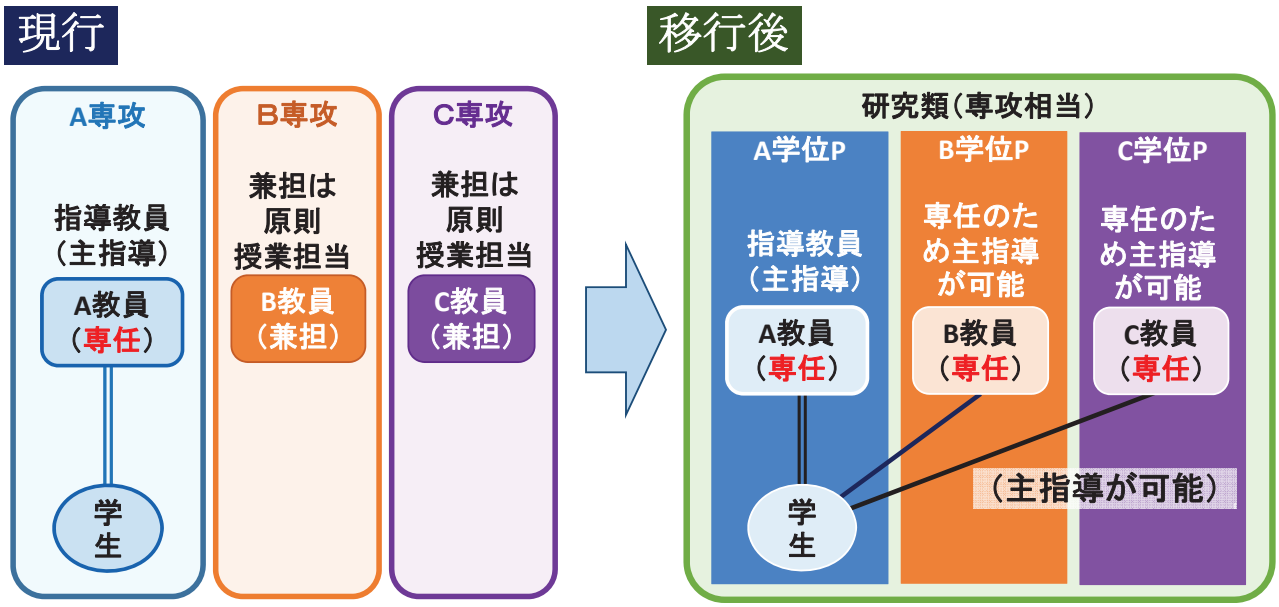
＜学生に対する効果のイメージ② 研究指導＞



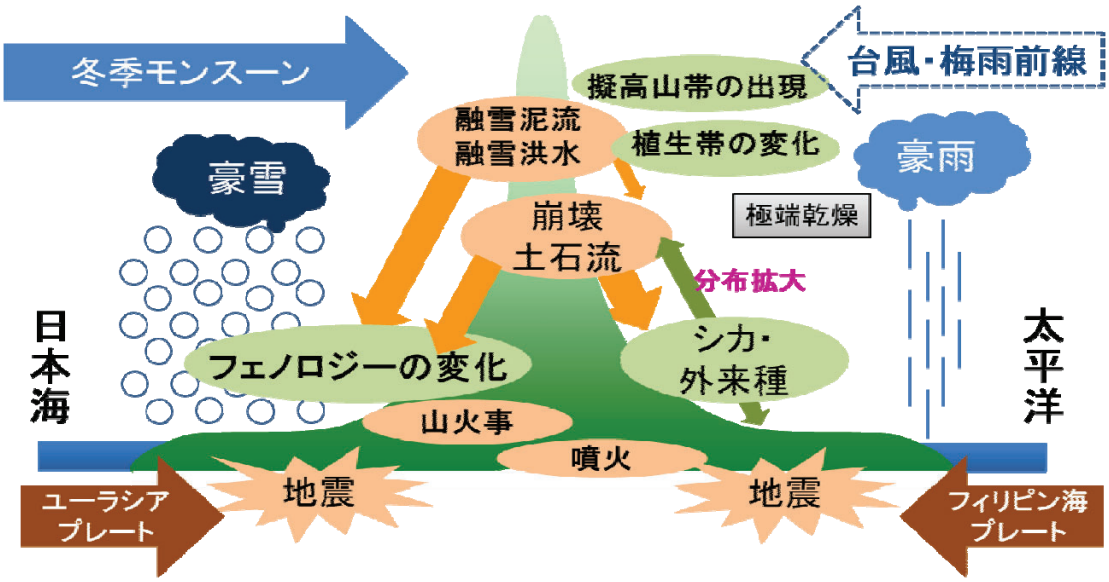
組織を大括りすることで、**今の研究科の単位が「専攻相当」**になり、その中では**全員が専任教員**となる。

このため、喫緊の社会的課題と技術革新に対して、今の専攻単位を超えて**協働体制を構築することが可能**になり、新たな教育研究の可能性が広がる。

27

研究類での新たな学位の創出（山岳科学学位プログラムの例）

絡み合う環境問題は、日本・世界の喫緊課題



28

人間総合科学学術院

山岳科学学位プログラムの例 ②

社会的要請に対応した人材育成のため
中部山岳地域フィールドを活用する。その特色と利点は、

中部山岳＝日本の屋台骨

特色・多様性
- プレート4つの交差点
- 地盤隆起中の活発変動帯
- 生物分布限界地、固有生物相
- 世界的豪雨・豪雪地
- 突発現象と長期変動が顕著

重要性
- 人口40%の水源
- 豊富な森林・観光資源
- 広い流域の起点
- 都市の後背地
- 地盤・生物・文化の多様性

しかしながら、日本縦断の山岳地域をフィールドとするには、
一専攻で対応するのは不可能

このため学位プログラムを活用し、本学生命環境科学研究科の全4専攻を融合し、かつ中部山岳にフィールドを持つ3大学と連携することを選択

筑波大学 生命環境科学研究科 / 信州大学 / 国立大学法人 静岡大学 / 山梨大学
大学間連携

山岳科学学位プログラムの例 ③

生命環境科学研究科の全ての前期課程（地球科学、生物科学、生物資源科学、環境科学）の教員が協力して「山岳科学学位プログラム」を開設

筑波大学
生命環境科学研究科

理学分野
地球科学
生物科学
生態学、系統分類学
遺伝学、気象学、地形学、地質学、水文学、地理学

農学分野
造林学、森林立地学、治山学、森林保護学、林産学
林業経営学、環境経済学、森林風致学、山村社会学
生物資源科学
環境科学

工学分野
河川工学、環境工学、森林工学、土木工学 、砂防工学、社会工学、リスク工学

山岳科学

協力大学
- 信州大学 理工学系研究科 農学研究科
- 静岡大学 総合科学技術研究科
- 山梨大学 総合研究部

オブザーバー
- 富山大学 極東地域研究センター・理工学教育部・経済学科
- 岐阜大学 流域圏科学研究センター
- 名古屋大学 生命農学研究科 環境学研究科

参画する教員は、山岳科学教育をやりたくて結集したので、非常にモチベーションが高く、学生を含めた全員が活気で満ち溢れている ← こうなることが理想